



【教育目標】 自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。
【一学校一改善】 ○探究学習の工夫・充実 ○サポートルームの開設・運営

問われる非認知能力～5気のすすめ～

令和6年がスタートしました。昨年中は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝いたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆様方におかれましては、新型コロナウイルスが5類となり、コロナ禍以前のような年末年始に近づいたのではないかと思います。しかしながら、元旦に石川県能登半島を中心とした大きな地震があり、二日には、羽田空港で航空機の衝突事故が起こるなど、令和6年は波乱の幕開けとなりました。地震や事故でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々が一刻も早く、日常の生活を取り戻すことを祈るばかりです。

さて、新年が始まりましたので、新たな心構えをもつよい時期です。そこで、「5気」について紹介します。「5気」とは、「やる気」「根気」「元気」「本気」「和気」のことであり、非認知能力の一部と捉えることができます。

自分の生き方を捉え、一步一步確実に歩みを進めるためには、「5気」が必要なのではないでしょうか。「やる気」をもって「根気」強く取り組み、健康で「元気」よく活動し、「本気」になって取り組み、周りとの協力して「和気」あいあいとやっていく。常に、このような「5気」をもち続けられるのかと問われたら、難しいことかもしれません。しかし、これまでの私自身の経験で、「どうしてあの時もっとやる気をもってやらなかったのだろう」「もっと本気でやっていたら」と後悔したこともたくさんあります。常に自分に「5気」を言い聞かせたいものです。

本気
相田みつお

なんでもいいからさ
本気でやってごらん
本気でやれば
たのしいから
本気でやれば
つかれないから
つかれても
つかれが
さわやかだから

「やる気」をもって「本気」で取り組んだ方が楽しいです。嫌々やらされた事は身に付きません。自分自身でやるぞと思ったことは、自分のものになっていきます。学習や部活動も同じです。この「5気」をもち続けるためには、ネガティブではなくポジティブに考えることが大切です。

ポジティブに考え、「5気」を大切に取り組みを始めましょう。

1月「睦月」に込められた思い

1月のことを「睦月」と呼びます。その語源として「睦み合う(むつみあう)」が「睦び月(むつびつき)」となり、それが「睦月」となったという説が最も有力とされています。

仲よくすること、仲睦まじいこと、お互いに親しみ合うことなどを大切にする「睦び月の宴」をお正月に家族や親戚が集まって行うことが由来となっています。

広い意味で言えば、「仲間」「学級」「グループ」が仲良くしたりすることが大切であることを時代を超えて教えてくれているような気がします。

